

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 每年3月31日 中間配当金 每年9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告とする。 公告掲載URL https://www.shindengen.co.jp/ir/ (ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。)

【お知らせ】

- 株式に関する住所変更、配当金振込先の指定、単元未満株式の買取・買増のお問合せについて
【証券会社等に口座を開設されている株主様】
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
【証券会社等に口座を開設されていない株主様】
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行に特別口座が開設されております。
下記フリーダイヤルにお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
0120-232-711 (三菱UFJ信託銀行証券代行部)
0120-094-777 (三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部) } 通話料無料
インターネットアドレス <https://www.tr.mufg.jp/daikou/>
- 配当金の支払通知書について
租税特別措置法の2008年改正により、お支払する配当金について、配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」をお送りしております。
【配当金を「配当金領収証」、または「口座振込」にてお受取りになられる株主様】
「支払通知書」を兼ねる「配当金計算書」を同封しております。株主様が確定申告をする際の資料としてご利用いただけます。
【配当金を株式数比例配分方式にてお受取りになられる株主様】
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 配当金の口座振込のご指定について
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 未受領の配当金について
三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

新電元工業株式会社

〒100-0004
東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル)
電話 03-3279-4431(代表)
<https://www.shindengen.co.jp/>



新電元工業株式会社 HP



新電元工業株式会社 公式X



新電元工業陸上競技部 公式X



統合報告書

第103期中間報告書 2025年4月1日～2025年9月30日

Business Report 2025.9

証券コード:6844

ShinDengen /
New power. Your power.

平素より、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第103期（2026年3月期）の中間報告書をお届けするにあたり、株主の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

◇ 当期の概況

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く環境は、国内では雇用・所得環境の改善が進んだ一方で、物価上昇の影響により消費者の購買活動は依然として慎重な姿勢が続きました。世界経済においては米国の関税引き上げや中国経済の停滞、緊迫する中東情勢の長期化などを背景に見通しが立ちにくい状況が続きました。このようななか当中間連結会計期間の売上高は前年同期比で増収、営業利益は前年同期比で増益となりました。主なセグメントの状況は以下の通りです。

パワーデバイス事業においては、産業機器向けは依然として本格的回復の兆しが見えない状況が続いた一方で、車載向けや家電向けは堅調に推移したほか、顧客からの納期が期首に集中した一過性要因などもあり増収となりました。損益面においては、増収効果とそれに伴う稼働益や構造改革効果により損失を計上した前期から増益となり、黒字転換いたしました。

パワーユニット事業は二輪向けがインド・アセアン地域を中心に堅調に推移したことにくわえ、四輪向けや汎用向けも増加し、増収となりました。損益面においては、増収効果があつた一方で為替相場がアジア通貨安で推移した影響や成長分野と位置付ける電動化関連製品へのリソース投下による費用増加により減益となりました。

パワーシステム事業では、通信インフラ向け整流装置において、顧客の設備投資が増加したことの影響により増収増益となりました。

◇ 今後の見通し

当社グループは、第17次中期経営計画（2028年3月期までの3ヶ年計画）に基づき、ターゲット市場として位置付け

るインド市場のさらなる開拓を目指しております。拡大する二輪車市場を背景に新電元インディアの第2工場建設を決定したほか、パワー半導体の拡販に向け現地に販売機能を設置、展示会へ積極的に出展するなど販路拡大と認知向上に取組んでおります。引き続き企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けた諸施策に取組むことで、株主の皆様の利益に資するよう努めてまいります。

なお、2026年3月期の連結業績は、売上高110,000百万円、営業利益3,300百万円、経常利益3,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,100百万円を見込んでおります。また、2026年3月期の配当金は1株当たり65円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年12月



新電元工業株式会社

代表取締役社長 (五) 中 信 売

◇ 当期のポイント

POINT-1 3セグメントとも堅調に推移し、前年同期比で増収

POINT-2 パワーデバイス事業は、昨年度実施した構造改革効果等により利益改善

POINT-3 遊休資産の整理を行ったことで特別利益約3.5億円を計上

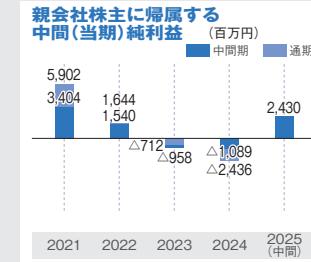
◇ 連結業績の推移

		第101期 (2024年3月期)	第102期 (2025年3月期)	第103期 (2026年3月期)
売上高	(百万円)	中間 49,602 通期 102,261	50,563 105,830	54,247 —
営業利益	(百万円)	中間 406 通期 1,278	366 128	2,318 —
経常利益	(百万円)	中間 673 通期 1,660	△298 △523	2,465 —
親会社株主に帰属する 中間（当期）純利益	(百万円)	中間 △958 通期 △712	△1,089 △2,436	2,430 —
1株当たり中間（当期）純利益	(円)	中間 △92.95 通期 △69.08	△105.63 △236.15	235.50 —
総資産	(百万円)	中間 147,683 通期 144,669	144,186 136,496	147,008 —
純資産	(百万円)	中間 67,207 通期 70,917	67,432 66,144	66,889 —
1株当たり純資産	(円)	中間 6,516.79 通期 6,876.60	6,535.95 6,411.20	6,480.80 —



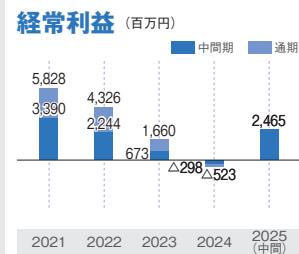
売上高 **54,247百万円** 前年同期比 3,684百万円増
(前年同期比7.3%増)

売上高はパワーデバイス事業およびパワーユニット事業は車載向け、パワーシステム事業は通信インフラ向けが増加するなど、全セグメント底堅く推移し前年同期比7.3%増の54,247百万円となりました。



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 **2,430百万円** (前年同期は1,089百万円の損失)

親会社株主に帰属する中間純利益は2,430百万円となりました。(前年同期は1,089百万円の損失)



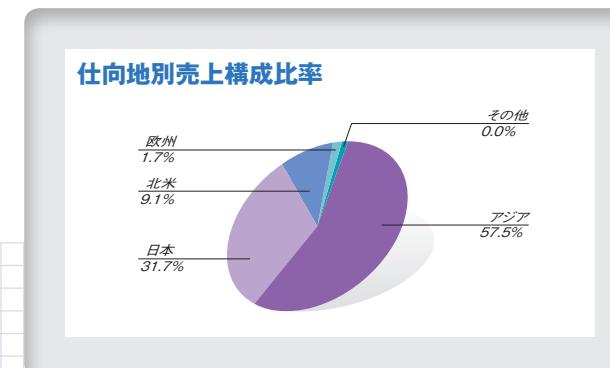
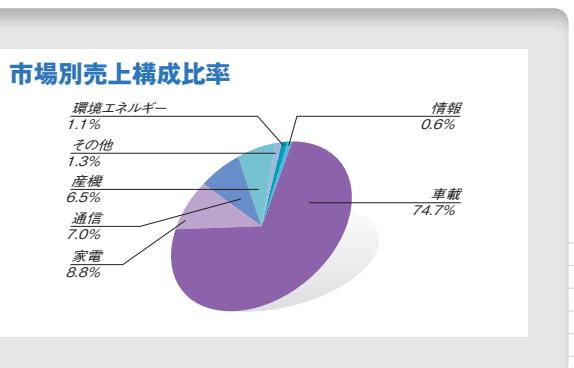
経常利益 **2,465百万円** (前年同期は298百万円の損失)

経常利益は為替相場がアジア通貨安で推移したものの、增收効果や前期に実施したパワーデバイス事業の構造改革効果などにより、2,465百万円となりました。(前年同期は298百万円の損失)



総資産 **147,008百万円** 前期末比10,512百万円増
純資産 **66,889百万円** 前期末比745百万円増

総資産については、現金及び預金が増加したことにより、前期末に比べて10,512百万円増の147,008百万円となりました。



セグメントの状況①

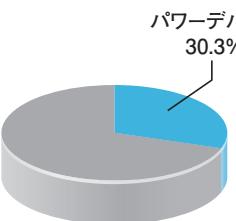
セグメントの状況②

パワーデバイス事業

概況（2026年3月期）

パワーデバイス事業の売上高は16,436百万円（前年同期比6.5%増）、営業利益は1,571百万円（前年同期は152百万円の損失）となりました。

産業機器向けは依然として本格的回復の兆しが見えない状況が続いた一方で、車載向けや家電向けは堅調に推移したほか、顧客からの納期が期首に集中した一過性要因などもあり増収となりました。損益面においては、増収効果とそれに伴う稼働益や構造改革効果により損失を計上した前期から増益となり、黒字転換いたしました。

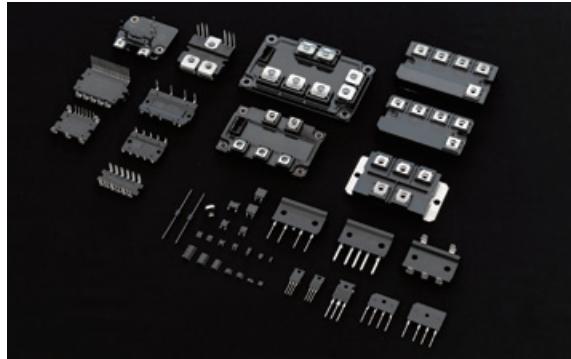


売上高構成比



売上高／営業利益実績

主要製品



- 一般整流ダイオード
- ブリッジダイオード
- 高速整流ダイオード
- TVSダイオード
- サイリスタ
- サイダック[®]
- パワーMOSFET
- パワーIC
- パワーモジュール

主な用途

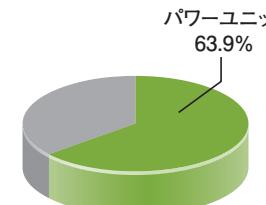
- 車載、産業機器
- デジタル家電、白物家電
- 通信機器、OA機器など

パワーユニット事業

概況（2026年3月期）

パワーユニット事業の売上高は34,645百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は1,964百万円（前年同期比19.6%減）となりました。

二輪向けがインド・アセアン地域を中心に堅調に推移したことにくわえ、四輪向けや汎用向けも増加し、増収となりました。損益面においては、増収効果があった一方で為替相場がアジア通貨安で推移した影響や成長分野と位置付ける電動化関連製品へのリソース投下による費用増加により減益となりました。



売上高構成比



売上高／営業利益実績

主要製品



- 二輪車製品
 - ・ECU
 - ・PCU
 - ・レギュレータ／レクチファイア
 - ・点火装置
- 四輪車製品
 - ・DC/DCコンバータ
 - ・ECU
- 汎用製品
 - ・発電機用インバータ

主な用途

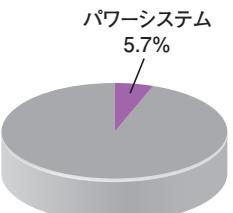
- 二輪車、四輪車、船外機
発電機

パワーシステム事業

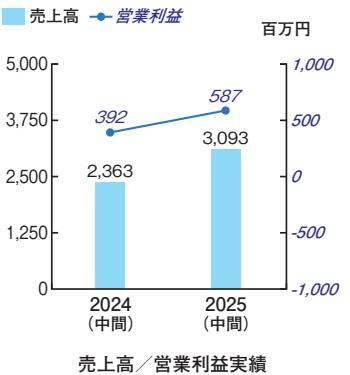
概況（2026年3月期）

パワーシステム事業の売上高は3,093百万円（前年同期比30.8%増）、営業利益は587百万円（前年同期比49.8%増）となりました。

通信インフラ向け整流装置において、顧客の設備投資が増加したことの影響により増収となりました。損益面では増収効果により増益となりました。



売上高構成比



売上高／営業利益実績

主要製品



主な用途

- 通信局用整流装置
- 移動体通信基地局用整流装置
- 高電圧直流給電システム (HVDC)
- 通信局用インバータ
- 通信局用リチウム蓄電システム

通信機器

その他

他の売上高は72百万円（前年同期比5.3%減）、営業損失は4百万円（前年同期は20百万円の利益）となりました。

◇新取締役のご挨拶



羽鳥 敏

このたび、取締役に就任することとなりました羽鳥敏でございます。重責を擔うことには身の引き締まる思いであります。

昨今、当社を取り巻く世界情勢や経済環境は大きく変動しており、国際的な通商政策の変化、地政学的リスクの高まり、地球温暖化対策の加速など、将来の予測が困難な課題が山積しております。このような不確実性の高い時代においては、変化をいち早く察知し、迅速かつ的確に対応することが、企業の持続的成長に不可欠であると考えております。私自身も、常に高い感度を持って変化を捉え、早期に判断・対応できるよう、業務に取組む所存です。

私は入社以来、パワーユニット事業の主力である二輪車向け製品の回路設計に従事し、その後設計品質や品質保証部門に携わってきました。また、パワーデバイス事業のパワーモジュール製品の前身となる技術開発にも関与するなど、部門横断的な経験をしてまいりました。今回の就任にあたり、新たに営業・情報・環境の分野を統括することとなりました。これまで主に技術分野を中心に業務を担ってまいりましたが、これまでの経験を活かしつつ、柔軟な発想とスピード感を持って新たな役割に取組んでまいります。

こうした新たな挑戦に臨むにあたり、改めて当社の強みを見つめ直す機会があり、当社の競争力の源泉は、長年培ってきた「半導体技術」「回路技術」「実装技術」といった技術と、それらのシナジーによって生まれる新たな付加価値の創出が最大の武器であると再認識しております。

今後は事業間の連携をさらに強化し、将来を見据えた事業ポートフォリオの構築と経営資源の最適活用に努めることで、企業価値の向上と持続的な成長の実現を目指してまいります。

「工夫次第、努力次第、自分次第」の精神を大切にし、誠心誠意、業務に取組んでまいります。

今後とも、株主の皆様のご期待に沿えるよう、真摯に努めてまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◇統合報告書2025を発行しました



2025年度からはアニュアルレポートに代り、統合報告書を発行しております。統合報告書には財務情報だけでなく、ビジョンや経営戦略、サステナビリティへの取組みなどの非財務情報を掲載しております。

◇ジャパンモビリティショー2025に出展

10月30日～11月9日に東京ビッグサイトで行われたジャパンモビリティショー（JMS）2025に出展しました。今回は「みらい ひろげる 48V」をコンセプトに、ブース内にロボット「シンディ」と遊べるゲームや間違い探しパネルを設置しました。

期間中は多くのお客様にご来場いただき、当社を身近に感じていただける良い機会となりました。

3つのチャレンジ

1 みらい工房

2023年10月に発足した「みらい工房」は、事業部の垣根を超えた全社プロジェクトです。各専門分野の技術・知識を持ち寄り、シナジーを生み出しています。

2 オリジナルロボット「シンディ」

シンディはみらい工房から生まれた、画像識別技術・力制御技術・軽量ロボットアーム・非接触充電を搭載したロボットです。デザインと名前は社内公募から選びました。

3 JMS出展

当社はこれまで多くの展示会に出展してまいりましたが、一般のお客様に向けた展示会への出展は今回が初の試みです。お子様にも分かりやすく、楽しみながら当社の技術を知っていただけるよう、内容や展示方法に工夫を凝らしました。



◇健康経営優良法人2025を取得

当社グループでは、安全衛生活動の推進を重要課題に掲げ、従業員の安全と健康に配慮した職場環境を整備しています。

従業員の健康を重要な経営資源と捉え、2024年度に経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2025（大規模法人）」の認定を取得しました。多様な人財が心身ともに健康で、いきいきと活躍できる職場環境の整備は、自発的な改善活動やイノベーションの促進につながると考えています。

今後も、従業員一人ひとりの健康を支える活動を通じて、持続可能な成長と企業価値の向上を目指してまいります。



◇会社概要

商 号 新電元工業株式会社
本社所在地 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
 同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。
設立年月日 1949年8月16日
資 本 金 17,823百万円
従 業 員 数 連結：4,865名 単体：1,078名
主要事業所 朝霞事業所・大阪支店・名古屋支店

◇取締役および監査役

代表取締役社長	田中信吉	取締役	北代八重子
取締役受川修		常勤監査役	森田俊英
取締役佐々木正博		監査役	二瓶晴郷
取締役羽鳥敏		監査役	伊藤章子
取締役西山佳宏			

(注1)取締役西山佳宏および北代八重子の両氏は、社外取締役であります。
 (注2)監査役二瓶晴郷および伊藤章子の両氏は、社外監査役であります。

◇執行役員

専務執行役員	受川修	執行役員	大西高弘
常務執行役員	佐々木正博	執行役員	横井義治
上席執行役員	羽鳥敏	執行役員	松尾博文
上席執行役員	千葉昌治	執行役員	周藤龍
		執行役員	松本義明
		執行役員	石塚毅
		執行役員	松原功

◇グループ企業一覧

国内
 株式会社秋田新電元
 株式会社東邦新電元
 株式会社岡部新電元
 新電元スリーワード株式会社
 新電元熊本テクノリサーチ株式会社
 新電元エンタープライズ株式会社
 新電元メカトロニクス株式会社

本書における、将来の見通しに関する記載につきましては、現時点で得られた情報に基づいており、多分に不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

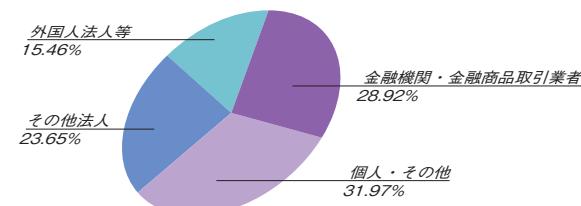
◇株式の状況

発行可能株式総数	31,000,000株
発行済株式総数	10,338,884株
株主数	10,003名
大株主	

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率 %
本田技研工業株式会社	1,336千株	12.95%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	959	9.30
中央日本土建株式会社	502	4.87
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	356	3.46
朝日生命保険相互会社	325	3.15
新電元工業協力会社 持株会社	314	3.04
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	267	2.59
新電元工業従業員持株会社	233	2.27
損害保険ジャパン株式会社	200	1.94
株式会社埼玉りそな銀行	185	1.80

(注)出資比率は自己株式(普通株式17,711株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



新電元（上海）電子有限公司
 Shindengen America, Inc.
 Shindengen Singapore PTE Ltd
 Shindengen Europe GmbH